

ワークショップ(第10回)概要

- 日時 2024年7月 8日(月) 14時00分から16時30分
2024年7月 9日(火) 11時00分から12時00分
2024年7月11日(木) 15時00分から16時30分

○場所 法人会議室、当事者の職場及び当事者の自宅付近の会議室

- 議題 視覚障がい者への個別説明及びヒアリング
・みんなトイレの満空表示方法
・展示内容の説明
・音声ガイドの利用

○出席者

エキスパート	—			
お困りごと当事者 3人	車いす使用者	0人	発達障がい者の親	0人
	視覚障がい者	3人	発達障がい者(親と参加)	0人
	聴覚障がい者	0人	LGBTQ+	0人
	精神障がい者	0人	医療的ケア児(親と参加)	0人
	知的障がい者(親と参加)	0人	子育て世帯	0人
	知的障がい者の親	0人		
作り手企業	—			
業務受託者	—			
傍聴	—			

○配慮事項

立体コピー

○議事要旨

2024年5月28日ワークショップ(第9回)に出席した3名の視覚障がい者へは当日に十分説明できなかったため、個別に説明とヒアリングを実施した。

- みんなトイレの満空表示方法

空ブースを青く光らせる方向で検討していることを伝えた。「弱視の人には青が理解しやすく、複数の色があるとわかりにくい」「背景は黒い方が見やすい」との意見があった。

- 展示内容の説明

実物大モックアップ検証をしたリフトライドやカラダ測定ポッドの不明点等を確認した。意見として「映像がわからないため、情景を説明する必要がある。細かな内容でなくても、想像を膨らませられるような説明があれば楽しめる」「決まった映像が流れる展示では、音声ガイド(ハロームービー*1、UDキャスト*2等)で楽しむ方法がある」「同伴する家族や介助者が映像を説明するとしても、その説明自体が難しいため、パビリオンのスタッフによる説明が良い」等があった。

- 音声ガイドの利用

視覚障がい者がどのようにスマートフォンを使用するのかを実際に見せてもらい、スマートフォンを活用した音声ガイドの導入について提案があった。

*1 ハロームービー:視覚、聴覚に障がいのある方が音声ガイド、字幕ガイドにより、映画を映画館で楽しめる無料アプリ

*2 UDキャスト:、映画や映像作品に合わせて、自動的に字幕や手話映像の表示、音声ガイド再生等を行うことのできる無料アプリ

5月のWSに参加した3名の視覚障がい者にヒアリングを実施

【サイネージの色の付け方】

- ・弱視や過去見えていた人には青が空きとイメージしやすい
- ・背景は黒の方がわかりやすい
- ・何番目のブースが光っているのか、ブース境界がわかりやすいことが前提

【展示・運営全般】

- ・ポッドの体験は健常者より時間がかかる、介助者と一緒に入り測定できればよい
- ・すべて計測できないとダメという訳ではなく、少しでも参加できることが大切
- ・障がいによって計測できないものは、内容に応じてスキップできればいい
- ・協賛企業展示は視覚障がい者にとって場所がわからない
- ・視覚障がい者は写真の内容を知りたい人が多い、25年後の自分の姿も知りたい
- ・事前情報提供や当日も配慮があるなど、面倒だからやめておこうと思わせない工夫

(展示)

- ・サイン、映像展示の音声ガイドの導入、設置箇所、内容、概算額
- ・ポッドでの計測しない（できない）項目のスキップ
- ・パビリオン展示UDの内容を協賛企業へ説明

(広報・運営)

- ・サポートが必要な方の事前に把握する方法とサポート体制
- ・事前情報提供
パビリオンマップや各展示の概要など、来館予定者向けにHP等で発信
(センサリーマップ、触知図、トイレプラン等)

リボン体験ルートでは

	事前情報	音声ガイド	運営スタッフ	備考
ブリーフィング(映)	○	済	○	体験手順なので映像の解説は不要
バンド発行(操)	○	なし	○	運営スタッフにて誘導、バンド巻くまで対応
ポッド(操)	○	済	○	操作手順は運営スタッフがサポート 測定しない項目のスキップ検討
リフトライド(映)	○	○	○	ナレーションとは別に、情景描写の音声ガイド
ミライのじぶん(映)	○	○	○	ナレーションとは別に、情景描写の音声ガイド
ミライのヘルスケア1(サ)	○	○	○	ゾーンサイン、各ブースサインの表示内容読み上げ
ミライのヘルスケア2(サ)	○	○	○	ゾーンサイン、各ブースサインの表示内容読み上げ
ミライの都市(サ) (映)	○	○	○	ゾーンサイン、各ブースサインの表示内容読み上げ 情景描写の音声ガイド
フィナーレ(映)	○	○	○	情景描写の音声ガイド

- ・九州国立博物館でナビレンス、ナビレンスGOを導入（2022年）
- ・HPでナビレンス導入、イヤホン持参、スマホない人へ貸出、を周知
- ・視覚障がい者向けのルート案内、音声ガイド、手話ビデオや写真などのコンテンツも利用して全ての来館者に向けたコード利用



2つの「ナビレンス de きゅーはく」の楽しみかた



音声ガイド「ナビレンスdeきゅーはく」で楽しもう！

九州国立博物館では、スマートフォンアプリ「Navilens」（ナビレンス）による4階文化交流展示室の観覧ガイドの提供中。アプリを起動して、スマートフォンのカメラを「カラータグ」に向ければ、音声による作品解説が自動的にスタートします。

＊スマートフォンをお持ちでないお客様のために貸し出し用端末も用意しています。4階インフォメーションセンターでお問い合わせください。

Download on the App Store GET IT ON Google Play

「Navilens」（ナビレンス）の推奨設定はこちら！

新音声ガイド「ナビレンスGo！deきゅーはく」も開始します！

文字や写真、手話などでガイドを楽しめる「ナビレンスGo！deきゅーはく」の提供も開始しました。

こちら、アプリを起動して、スマートフォンのカメラを「カラータグ」に向ければ、文字や写真、手話などでガイドが自動的にスタートします。

＊スマートフォンをお持ちでないお客様のために貸し出し用端末も用意しています。4階インフォメーションセンターでお問い合わせください。



Download on the App Store GET IT ON Google Play

「Navilens GO」（ナビレンス GO）の推奨設定はこちら！

https://www.kyuhaku.jp/exhibition/exhibition_info_navi.html

<https://youtu.be/eRxQKKgWlQo?si=us2j0x64AvMZUxC4>

映像の美しさを音声ガイドから感じられた作品

『打ち上げ花火 下から見るか横から見るか（アニメ版）』

<https://www.aniplex.co.jp/uchiagehanabi/>

タイトル通り、花火の映像がたくさん出てきます。映像の美しさは目で見なければ分からないと思いましたが、本作の音声ガイドを聞いた瞬間に、思わず「きれい」とつぶやいていました。

主人公2人が、灯台から花火を見上げるシーンがありますが、花火の音だけが聞こえ、花火が打ちあがっていることしかわかりません。

音声ガイドが加わると、

音声ガイド：灯台に主人公2人がたたずむ。

漆黒の夜空に赤・緑・黄色と追いかけるようにして色とりどりの花火が打ちあがる。

風車やビルに花火の光が反射され、風車やビルなど色のなかった街並が色づく。

もともと色がなかった街並みが、元の色ではなく花火のカラフルな色に色づいているという描写が、現実味のなさがあり、より想像が掻き立てられました。

https://www.carefit.org/liber_carefit/service07a.php

無音が多いので、音声ガイドが付いていたおかげで見られるようになった映画

『8年越しの花嫁 奇跡の実話』

<https://movies.shochiku.co.jp/archive/8nengoshi/>

結婚式の直前に病に倒れた花嫁と、目覚めるまで待ち続けた新郎のストーリーです。

病気のために眠っているシーンが多く、音声ガイドがなければ見るのが難しかった作品です。作中では、ベッドで眠り続けていた主人公が、目を覚ますシーンがあります。

音声ガイドがない場合、この新郎のセリフで目を覚ましたのだろうということは分かります。ただ新郎がマイに自分のことが分かるかと聞いているだけに感じました。

「目を覚ましたのだろうか」と予想しているだけのため、感動が半減してしまいました。

このシーンに音声ガイドが加わると、以下のような描写がされています。

音声ガイド：「病室内が朝日に照らされる。ベッドで静かに眠っている主人公。

ゆっくりと目を開ける。」

「主人公からの視点。周囲を見回し、視線を巡らせる。新郎と視線がぶつかる。」

新郎のセリフ：「マイ、僕だよ。わかる？」

マイが新郎に気が付いたので聞いたことが分かり、新郎が自分のことを思い出してもらおうと必死な様子が伝わってきました。

5月のWSに参加した3名の視覚障がい者にヒアリングを実施

【サイネージの色の付け方】

- ・弱視や過去見えていた人には青が空きとイメージしやすい
- ・背景は黒の方がわかりやすい
- ・何番目のブースが光っているのか、ブース境界がわかりやすいことが前提

【PHRポッド】

- ・白杖をもたない人にはスタッフも気付かないので、声掛けなどあるとよい
- ・ポッドでの体験は健常者より時間がかかる。文字は読み返せるが、音声は繰り返し聞けない
- ・カメラの位置、手を置く位置は前もってわからないと難しいので、HPなどの事前情報や当日の言葉で説明など選択肢は多い方がよい
- ・面倒だからやめておこうと思わせない工夫が必要
- ・ポッドに介助者と一緒に入り、測定結果に影響が出なければよい
- ・すべて計測できないとダメという訳ではなく、少しでも参加できることが大切
- ・障がいによって計測対応できないものは、内容に応じてスキップできればいい

【運営・展示全般】

- ・PVまではたどり着けるが、館内で細かい動きができないので、事前登録時にサポートが必要など登録できるとよい
- ・協賛企業展示は視覚障がい者にとって場所がわからないので体験が難しい、列に並ぶことも難しい
- ・様々な障がいの方がいて、一緒にくることもある。サポートが必要な人は個々に違うので、事前に決めずにその時に対応してほしい
- ・説明には「一般的な説明」と「実際目の前にあるものの説明」があって、「一般的な説明」をされても、それがどんなものかがわからない
- ・ガラスの前を歩くだけだとつまらない、触れられる展示があるとよい
- ・パレードの様子は説明がないと理解できない
- ・アバターの变化は家族でも説明が難しいので、説明マニュアルがあるとよい
- ・視覚障がい者は写真の内容を知りたい人が多い、25年後の自分の姿も知りたい

【音声ガイドアプリ】

- ・「UDキャスト」<https://udcast.net/>、ハロームービー<https://hellomovie.info/>と同じように映像を流す場合に対応できるのでは。（3人とも普段から利用）
- ・ビーコンはあまり聞かない